

## 小規模事業所職員研修 北欧式の介助法を学ぶ

7月5日、西胆振の小規模事業所が合同で、「北欧式トランスファー介助法と介護職の労働環境セミナー」を旧大原小学校で、幸清会など西胆振の小規模事業所10法人22人が参加して開かれました。



真剣に介助法を学ぶ職員ら

単独で講演会や研修が開催しにくい事業所が北海道の福祉・介護人材確保緊急支援事業を受けて、職員の介護技術のキャリアアップを目的に行ったものです。

セミナーでは、デンマーク在住の小島ブンゴード孝子ユーロ・ジャパン・コミュニケーション社代表が講師を務め、椅子から立ち上がり、座るときの介助やベッドから車椅子への移乗など、実践的な指導が行われました。

20北電カップ全道サッカー少年団大会室蘭地区予選で優勝し、全道大会への出場を決めたTユニティFCが、7月6日役場を訪問し、真屋町長に優勝の報告と全道大会への意気込みを語りました。

同チームは、2007年に豊浦サッカー少年団と虻田サッカー少年団が合併してできたチーム。決勝トーナメント1回戦では、PK勝ちと苦戦しましたが、決勝では6対0で快勝し、全道への切符を手に入れました。

町長の激励を受け、館岡瑞基（豊浦小6年）キャプテンは「まずは、予選を突破し決勝リーグに進出したい」と全道大会に向け、強い決意を語りました。



全道大会への出場を決めたTユニティFC

## 少年サッカーチームTユニティFC ほくでんカップで全道へ

親子で料理を作り、食について考える「親子食育料理教室」（洞爺湖町食生活改善推進員協議会主催）が7月9日健康福祉センターさわやかで開かれ、親子づれ約24人が参加して、栄養や食の大切さを学びました。

この日のメニューは、しらす干しを卵焼きで包んだキッズごはんと千切り野菜のスープ、キウイといちごのミルクかんでんの3品。

同推進員やお父さん、お母さんの手ほどきを受けながら、参加した子どもたちは、料理づくりを楽しんでいました。

最後に出来上がりを試食し、美味しい笑顔が会場に広がっていました。



お母さんの手ほどきで調理を楽しむ児童

## 料理作りで食の大切さを学ぶ 「親子食育料理教室」開く

## とうや小で食育授業 生産者との交流会開く

生産者から直接話を聞いて、食の大切さを知る授業が、7月13日とうや小学校で行われ、6人の生産者の皆さんが、各学年の教室で、それぞれ自分が育てている野菜について語りました。



生産者を囲んで給食を食べる2年生

2年生の教室では、伊藤文雄さんが「ほうれん草」について話をし、児童からは、「朝何時に起きますか」「ほうれん草はおいしかったですか」など素朴な質問がたくさんされました。

授業の後は、参加者が提供した野菜などを使ったメニューの給食をいっしょに食べ、交流を深めました。

まちのわだい